



健康

安心

# 青少年の薬物乱用の実態と その対策について

豊橋市薬剤師会 理事 林彰久

# 本日の流れ



青少年の薬物乱用の現状と課題



市販薬のオーバードーズにおける課題



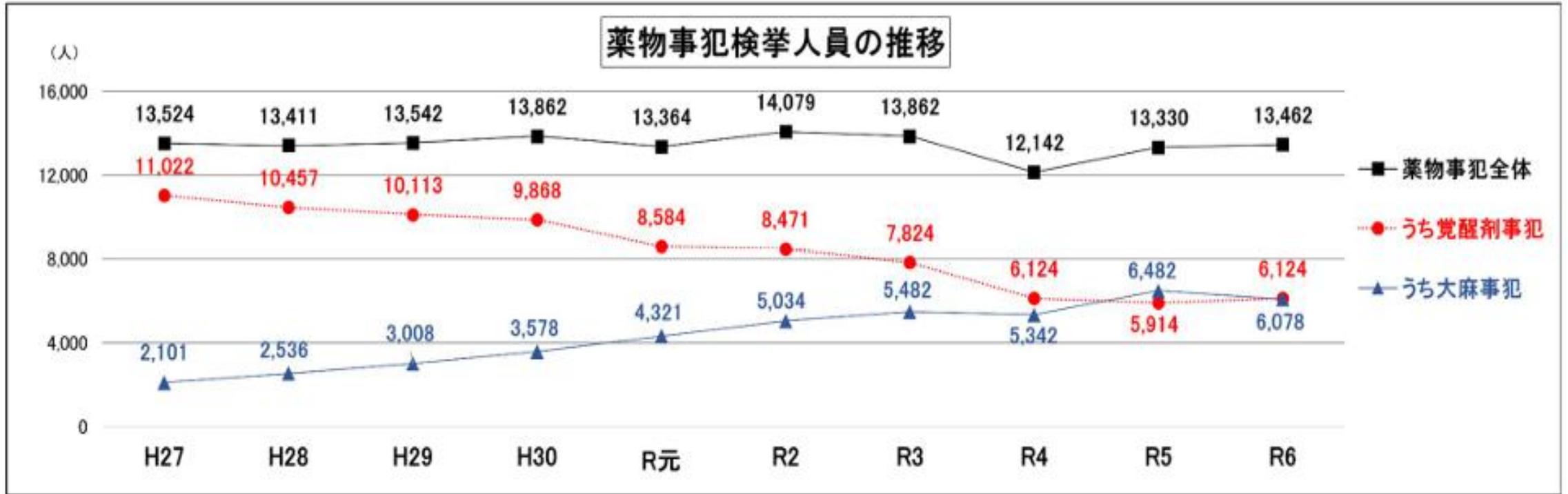
薬物乱用防止教室の役割

# 日本における薬物乱用の現状

第五次薬物乱用防止五か年戦略に基づき、関係府省庁の緊密な連携のもと、予防啓発活動等による国民の規範意識の醸成や取締り等を含めた総合的な対策の結果、**我が国は諸外国と比較して、極めて低い薬物生涯経験率を誇り、薬物政策が功を奏している。**

第六次薬物乱用防止五か年戦略  
(薬物乱用対策推進会議、令和5年8月)

# 国内の薬物事犯の推移と対策



第3次覚醒剤  
乱用のピーク

大学生等の大麻乱用  
が社会問題

危険ドラッグの乱  
用が社会問題

若者の大麻乱用が  
社会問題

覚醒剤と大麻事犯  
の検挙人員が逆転

H9

H10

H21

H26

H27.2

H29～現在

薬物乱用防止  
五か年戦略

危険ドラッグ  
の店舗がゼロ

第六次薬物乱用防止  
五か年戦略

# 最近の薬物乱用の特徴

ハードドラッグからソフトドラッグへ、そして…

①有機溶剤乱用・依存の減少

②覚醒剤乱用・依存の高止まり

③大麻乱用の確実な浸透

④危険ドラッグの登場

⑤医薬品乱用の静かな拡大

ハードドラッグ

ヘロイン・コカイン・覚醒剤・LSD

ソフトドラッグ

大麻・マジックマッシュルーム等

捕まらない薬物？

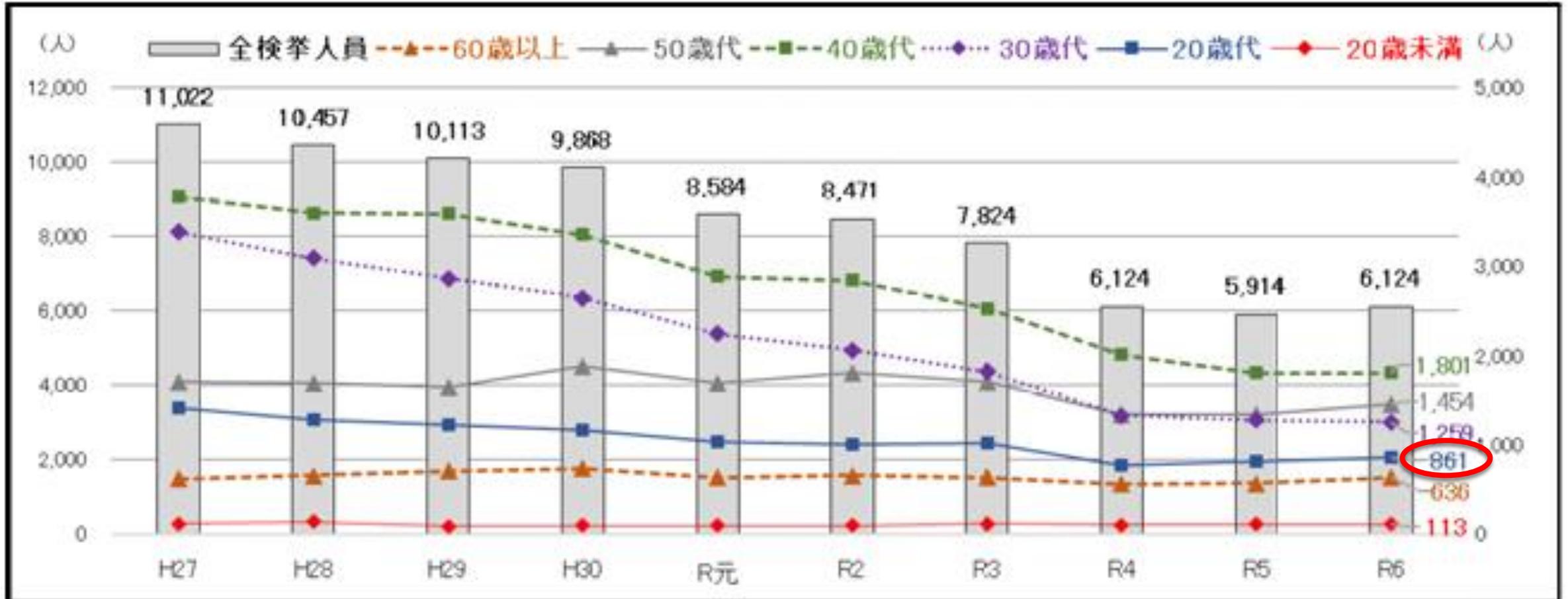
医薬品

# 日本における薬物乱用の課題

- ☑全薬物事犯の検挙人数を見ると、この10年間は1万4千人前後の横ばい状態であり、引き続き予断は許さない状況と言える。
- ☑令和3年には過去最多の検挙人数を記録し、今まさに大麻乱用期の渦中にあると言え、大麻に特化した施策が急務となっている。

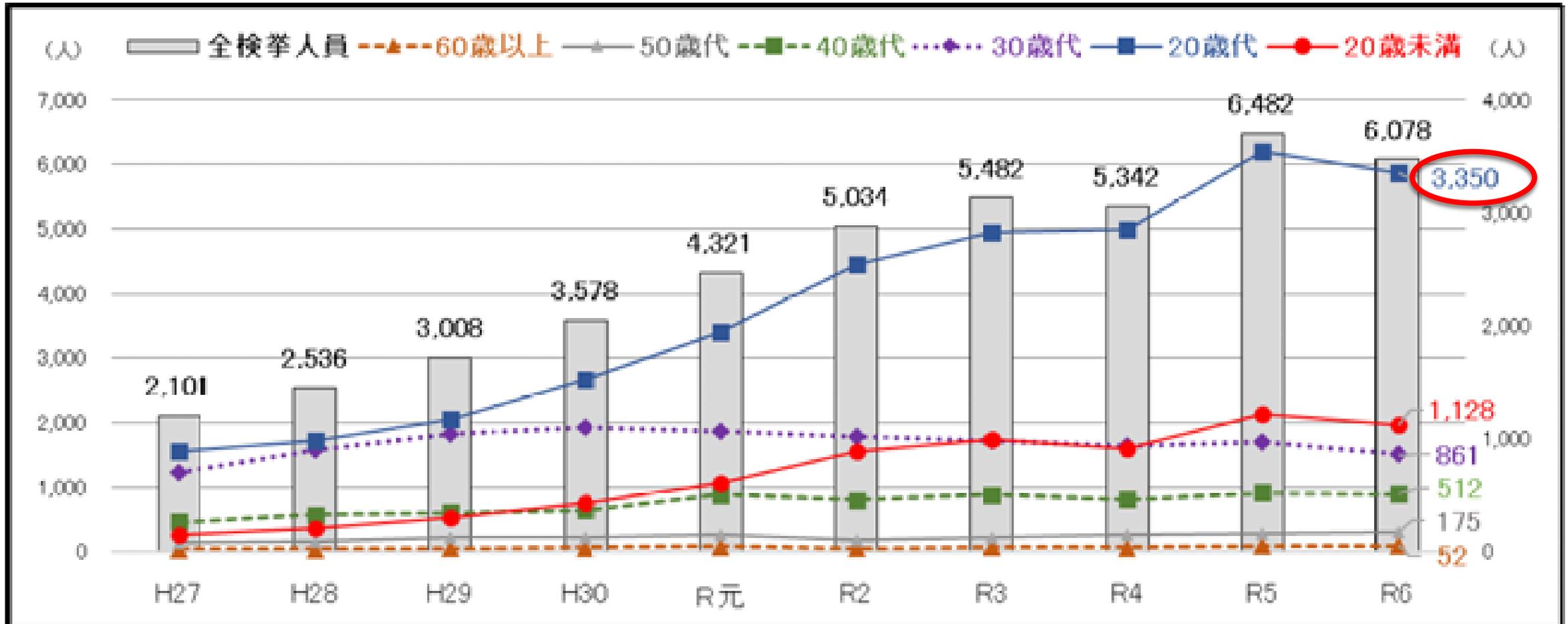
第六次薬物乱用防止五か年戦略  
(薬物乱用対策推進会議、令和5年8月)

# 覚醒剤事犯年齢層別検挙人員の推移



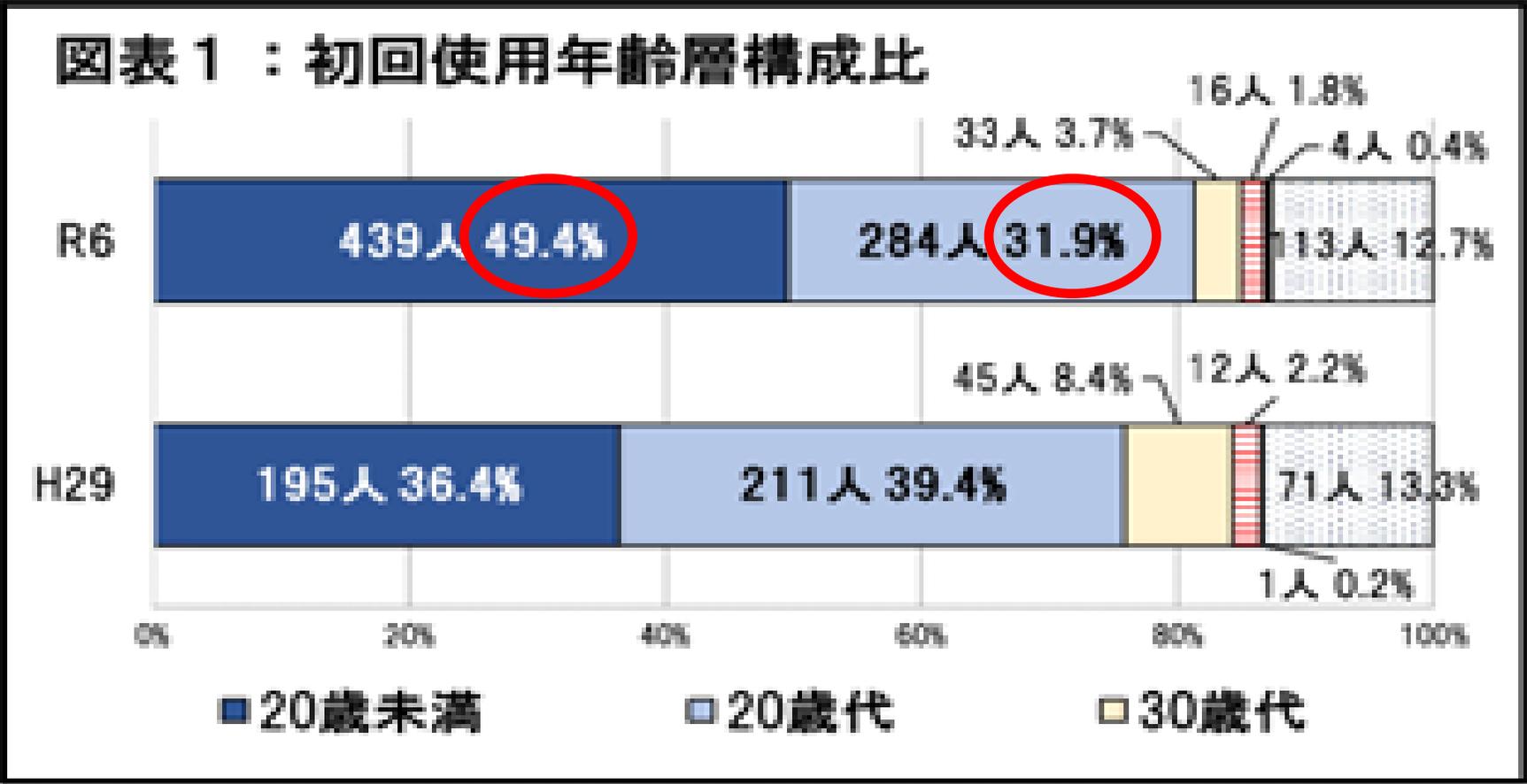
20歳代の割合は、14.1%

# 大麻事犯年齢層別検挙人員の推移



20歳代の割合は、55.1%

# 課題1：薬物使用の低年齢化

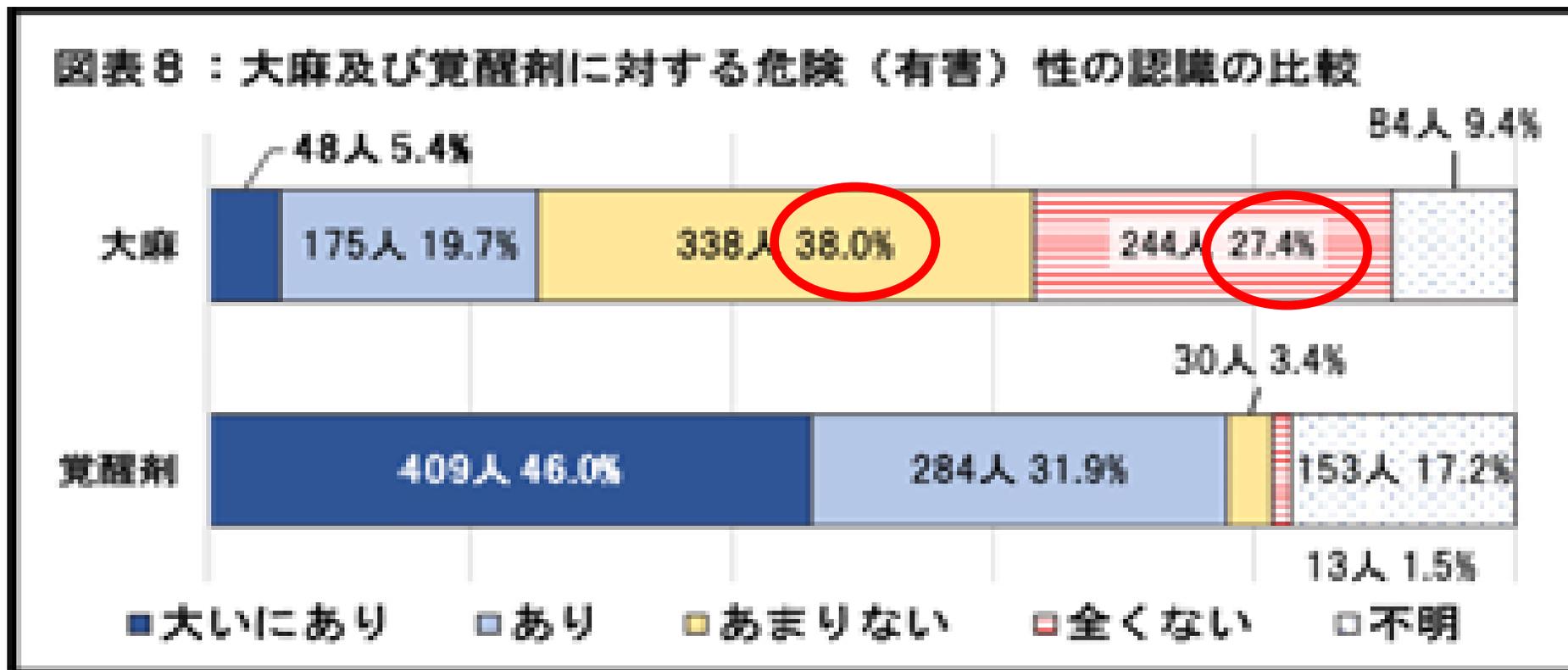


# 日本における薬物乱用の課題

☑インターネット等における「大麻には有害性がない」等の  
誤情報の流布や諸外国における嗜好品用大麻の合法化  
のような国際的な潮流が影響

第六次薬物乱用防止五か年戦略  
(薬物乱用対策推進会議、令和5年8月)

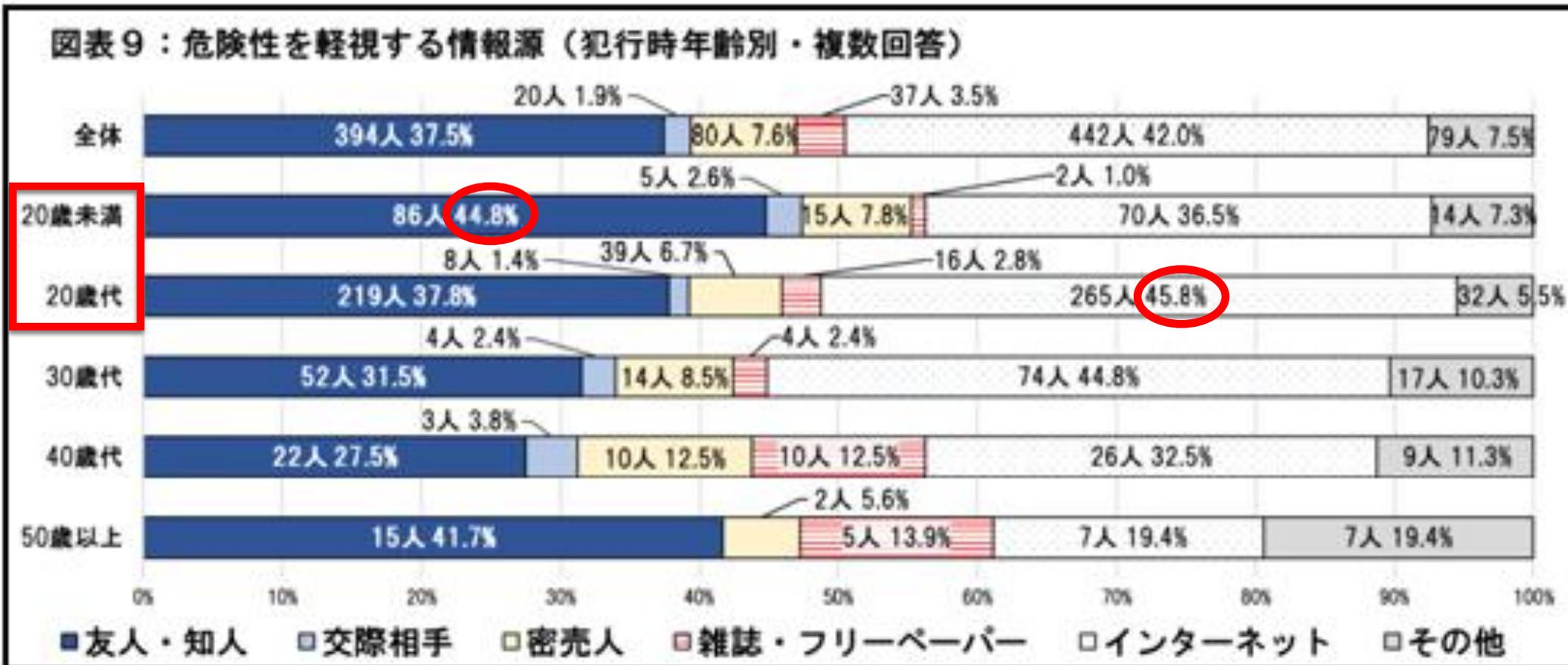
## 課題2：危険性の認識の甘さ、危うい情報源



大麻事犯検挙者の約65%が、大麻には危険性が「全くない」「あまりない」と認識している

# 課題2：危険性の認識の甘さ、危うい情報源

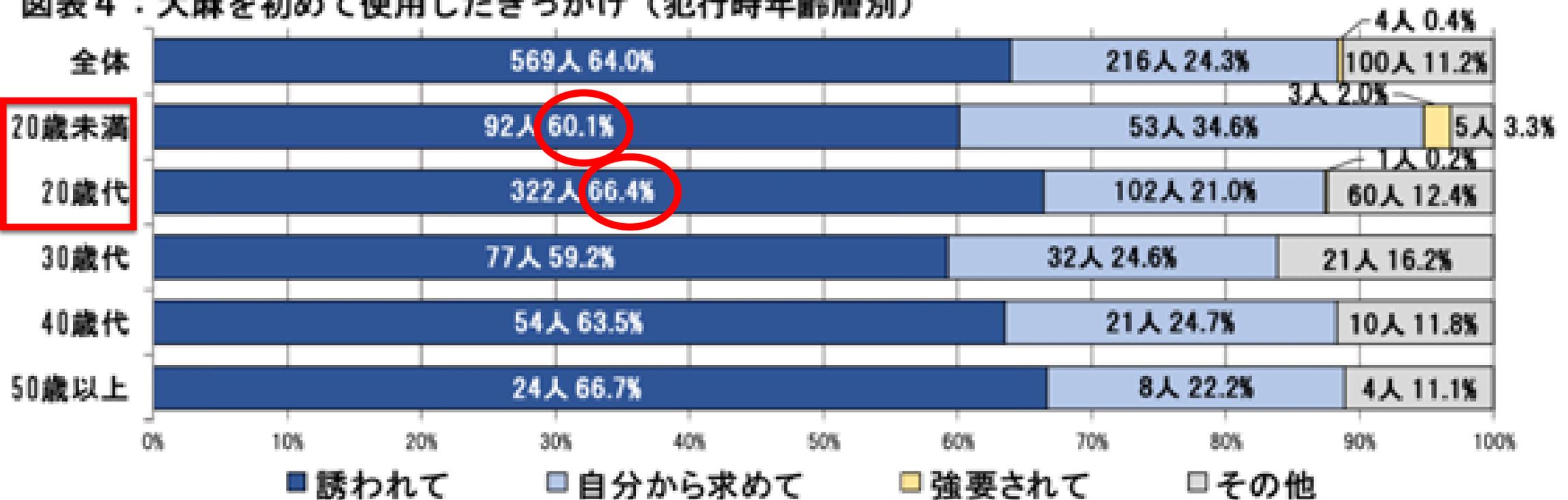
図表9：危険性を軽視する情報源（犯行時年齢別・複数回答）



20歳未満では、誤った情報の入手先の約80%が「友人・知人」「インターネット」である

# 課題3: 安易なきっかけ(誰にでも起こりうる?)

図表4: 大麻を初めて使用したきっかけ(犯行時年齢層別)



身近な人からの誘い

# 課題3: 安易なきっかけ(誰にでも起こりうる?)

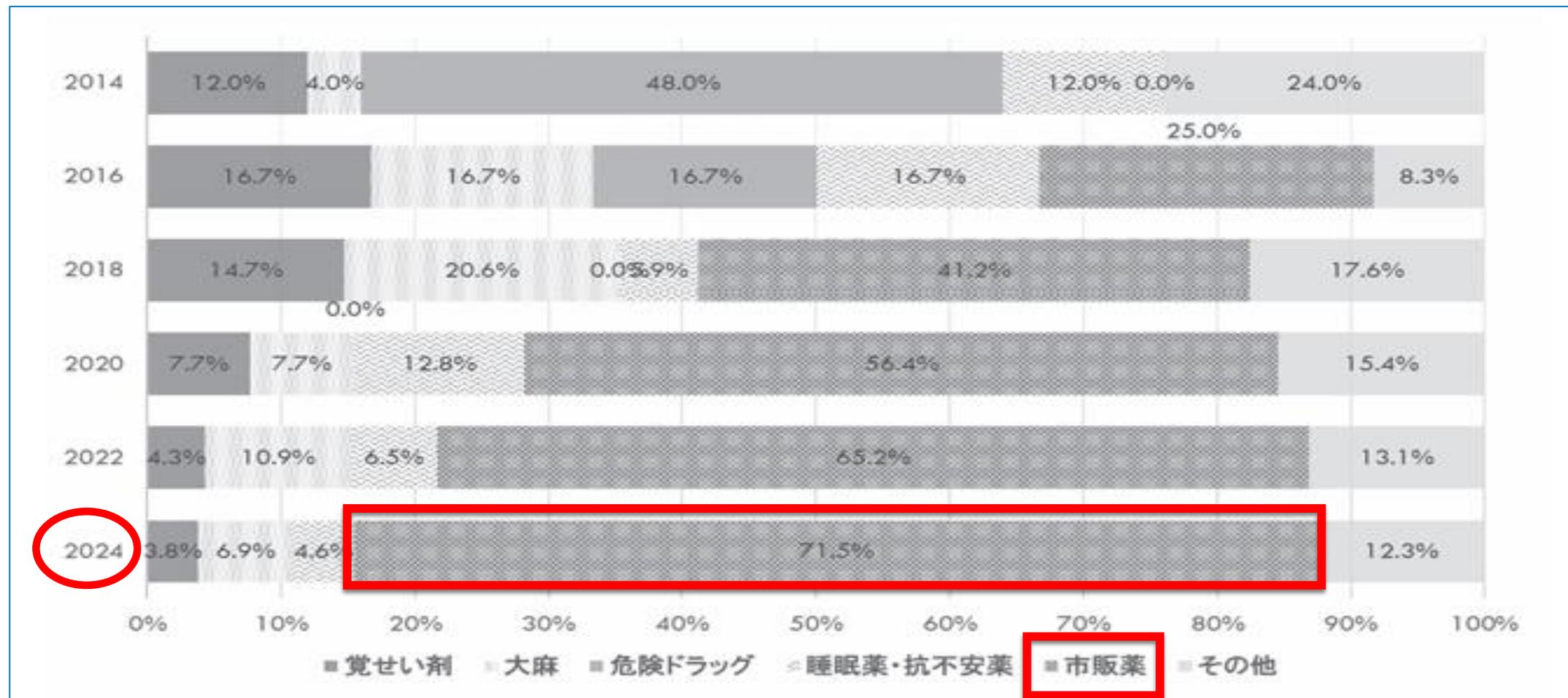
図表3: 大麻を初めて使用した動機(犯行時年齢層別・複数回答)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	全体
好奇心・興味本位	39.5%	39.3%	35.2%	41.8%	30.1%	38.6%
その場の雰囲気	21.3%	18.6%	16.3%	19.6%	21.9%	18.9%
ストレス発散	7.8%	6.2%	9.6%	6.3%	6.8%	7.0%
好きなアーティストや音楽からの影響	6.9%	7.1%	4.8%	4.4%	2.7%	6.3%
多幸感	6.6%	6.7%	6.3%	4.4%	2.7%	6.3%
陶酔効果	4.4%	5.4%	5.9%	5.7%	6.8%	5.4%
現実逃避	6.3%	3.9%	6.7%	3.2%	6.8%	4.8%
パーティー感覚	2.5%	5.1%	4.1%	5.1%	2.7%	4.4%
クラブや音楽イベント等に参加した高揚感	2.8%	4.2%	4.1%	5.7%	11.0%	4.3%
その他	1.9%	3.6%	7.0%	3.8%	8.2%	4.0%

好奇心・興味本位

# 課題4：捕まらない薬物(医薬品)乱用の拡大

## 10代の主たる薬物の推移



# オーバードーズ 【Over Dose】

医薬品を、決められた量を超えて過剰に飲むこと

オーバードーズした



オーディ  
ODする



医薬品を用法・用量を守らずに過量に摂取する「オーバードーズ」は、健康被害を引き起こしたり、やめられなくなったりするおそれがあります。自分や周囲の人が苦しんでいる場合、医師または薬剤師に相談しましょう。

# オーバードーズ

医薬品の適正使用を守らないオーバードーズは法律違反であること、また危険行為であり、人の生死にかかわる問題に対して、響きだけで「カッコいい」などと評される（SNS等）ような言葉づかいはやめ、

## 「薬物過剰摂取」 「危険行為」

といった本来の意味が伝わるような言葉を選ぶ必要があること。さらに、自分だけの問題ではなく、多くの人に迷惑をかける行為だと認識させることが重要。

また、薬物に関する教育の課題では、大麻、覚醒剤だけでなく、医薬品、医薬部外品、食品添加物など、身近な薬物の危険性も教えていくことが重要

# 薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021

(国立精神・神経医療研究センター)



厚生労働省  
依存症に関する調査研究事業  
薬物使用と生活に関する全国高校生調査  
(課題番号 202204)

## 調査概要

目的：全国の高校生における飲酒・喫煙を含めた薬物使用および生活に関する実態を把握すること

対象：全国からランダムに選ばれた全日制高等学校202校

調査期間：2021年9月～2022年3月末

調査方法：無記名の自記式アンケート

有効回答：計80校における高校生44,613名



国立精神・神経医療研究センター薬物依存研究部

<https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/index.html>

# 「この1年間に、あなたは市販の咳止め薬や風邪薬を乱用目的（治療目的ではなく）で使用した経験がありますか？」

ここでいう乱用目的とは「ハイになるため、気分を変えるために決められた量や回数を超えて使用すること」を意味しています。



「過去1年以内に市販薬の乱用経験がある」という高校生

**約60人に1人の割合**

(高校生全体の1.57%、推計値)



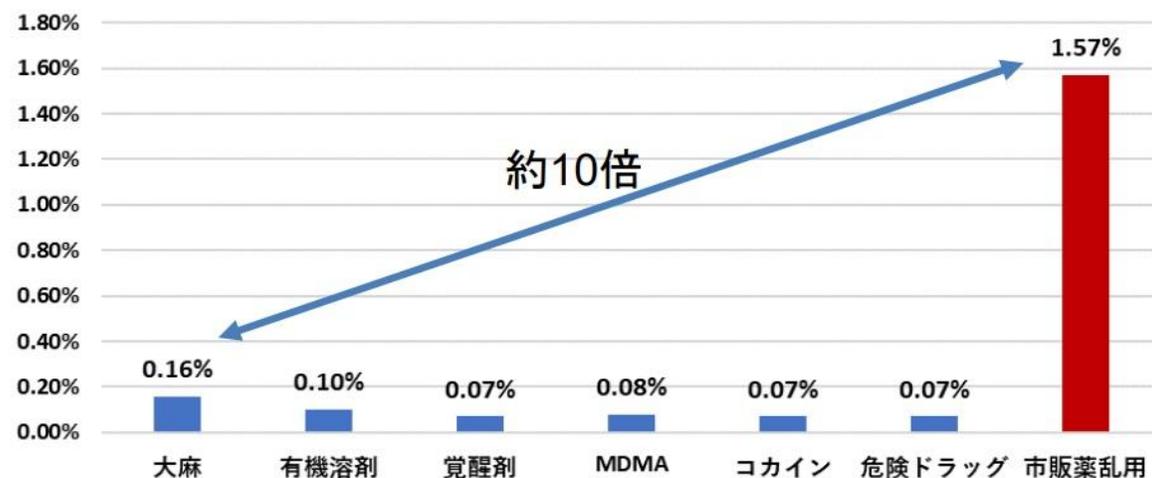
**2024年:1.36%(約70人に一人の割合)**

薬物使用と生活に関する全国高校生調査2021(国立精神・神経医療研究センター)

高校生における市販薬乱用の経験率（過去1年間）

# 大麻の使用率の約10倍

（大麻0.16%、市販薬乱用1.57%、いずれも推計値）

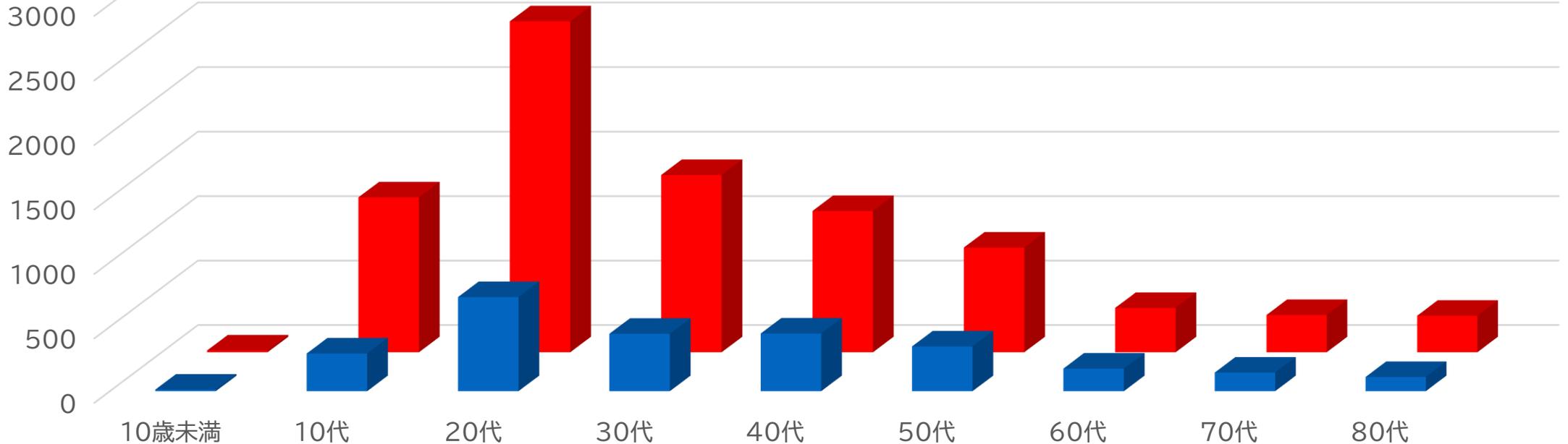


全国の高校生における違法薬物および市販薬乱用の経験率（過去1年間）

# 医薬品の過剰摂取が原因と疑われる救急搬送人員

オーバードーズは10代だけの問題ではない!?  
社会の荒波に立ち向かえるだけの力を育成する必要がある!?

救急搬送人員(人)



※調査対象本部:政令市消防本部・東京消防庁及び各都道府県の代表消防本部(計52本部)

■男 ■女

# オーバードーズを繰り返す人たち

つらい  
忘れたい  
なにもかもどうでもいい



楽になりたい  
消えたい  
死にたい

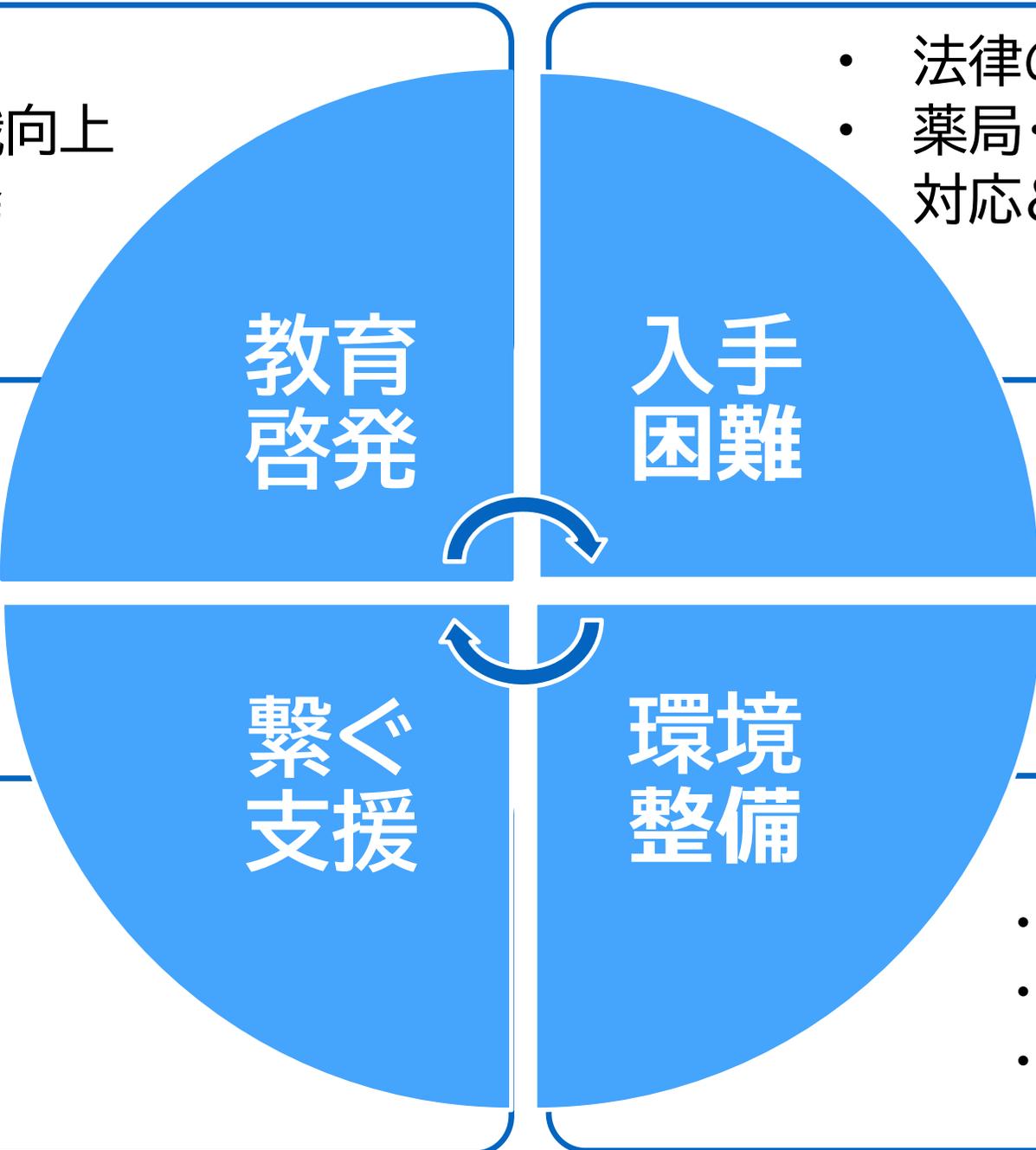
生きづらさ



大麻  
コカイン  
ヘロイン  
覚醒剤 など < オーバードーズ対象医薬品

オーバードーズ

防止の4項目



- 学校での啓発
- 販売者側の知識向上
- 多方面への啓発

- 法律の整備
- 薬局・ドラッグストアでの対応&連携網

教育  
啓発

入手  
困難

繋ぐ  
支援

環境  
整備

- 気づき
- 保健所との連携
- 依存症専門病院

- 校内での声掛け
- スクールカウンセラー
- NPO法人

# 薬物乱用防止教室の役割

～くすり教育の重要性～



# 薬物乱用防止教室・くすり教育の学校教育における主な枠組み

文部科学省 薬物乱用防止教室開催状況調査より

## 1. 薬物乱用防止教室 ← 学校保健計画 (学校保健安全法)

- 警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師、保健所職員 等

◆ 発達段階に応じて継続的かつ総合的な教育、指導や支援が不可欠

薬物乱用防止教室は、外部専門家による指導が望ましいものの、国や都道府県教育委員会等が開催する研修会等において研修を受けた薬物乱用防止教育に造けいの深い指導的な教員の活用も考えられる

## 2. 教科教育 (すべての子どもたちが身につけているべきミニマム)

- 教諭が主体！ ← 学習指導要領\* (文部科学大臣の告示)

小学校 → 体育科・保健領域 (第6学年)

中学校 → 保健体育科・保健分野 (第2学年)

高等学校 → 保健体育科・科目「保健」 (第1学年)

中・高では医薬品  
についても含む

※ (I) 喫煙，飲酒，薬物乱用などの行為は，心身に様々な影響を与え，健康を損なう原因となること。また，これらの行為には，個人の心理状態や人間関係，社会環境が影響することから，それぞれの要因に適切に対処する必要があること (中学校保健体育学習指導要領)

# 学校保健の推進と公平な教育環境整備



学校薬剤師が活躍できる環境の整備

適正な配置・費用の配分・地域格差の是正

学校環境衛生

# 薬物乱用防止教室の目標

薬物乱用の定義と、その影響に関する正しい知識について

大切な自分の心や身体を自分で守る意識について

信頼できる相手とつながることの大切さについて





# 自己肯定感を醸成すること



子ども達が自身が**ありのままの自分**でいることのすばらしさ

大切な**自分の心と体**を守るために薬物乱用はしない**意識付け**

薬物の誘いを察知し**判断**する**能力**を養う

きっぱりと誘いを断り**自分**を守る**力**が身につくこと

# 指導方法の要点



## 小学生編



薬物乱用の危険に直面している児童は多くないが、**困り感**を持ち、**生きづらさ**を抱える者も**出始める**

- ① 薬物の**危険性**をわかりやすく伝える
- ② 自分の**長所**を知り、自分を大切に**する意識**を高める
- ③ 困った時は**身近な大人**に相談することにより
- ④ 的確な**判断力**を**養う**ことを意識して指導

# 指導方法の要点



## 中学生編

飲酒・喫煙とともに**違法薬物**に対する**興味**が生まれやすく、  
また**仲間**との**関係性**にも**敏感**になる年代

- ① 薬物の**危険性・違法性**をきちんと**理解**させる
- ② **信頼**できる**大人**に**相談**することで**正しい情報**につながる  
ことにより
- ③ **誘われた場合**に**適切な対応**ができることを意識して指導

# 指導方法の要点



高校生編!

経済的な自由度が高くなり、大人と接する場面も増えてくる年代のため、薬物に関する基本的な知識を**確実に**しておきたい

- ① 生きづらさに理解を示しつつも、短期的・将来的なリスクを含めて伝えたい
- ② 信頼できる大人に相談することの大切さを伝える
- ③ 確かな知識と的確な判断力が得られることを意識して指導



ご清聴  
ありがとうございました